



理系女子の 入学から卒業、 キャリア継続までを 幅広くサポート

落合豊子教授
(医学部)

野呂知加子教授
(生産工学部)

特別インタビュー

日本大学キャリアウェイ・プロジェクト

平成24・25年度の理事長特別研究に指定された「キャリアウェイ」理系女子学生のキャリア教育と活躍促進のための環境整備に関する研究（日本大学キャリアウェイ・プロジェクト）。女子中高生の理系選択支援から、理系女子学生のキャリア教育・就職力開発、卒業後のキャリア継続・再教育、さらに大学院生や若手教職員が活躍できる環境整備の推進までを目指す。いわば理系女子の「入り口」から「出口」までをサポートする実践的な研究プロジェクトだ。同プロジェクトについて、中心メンバーである落合豊子、野呂知加子両教授に話を伺った。

日本、そして大学の発展には
理系女子の力が不可欠

——日本大学キャリアウェイ・プロジェクトを立ち上げた経緯をお聞かせください。

落合 今回の研究に先立ち、本学の「キャリアウェイ・ユニバーサル化日大モデル」が平成20年度から3年間、文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業に採択されて、私たちは女性研究者の支援や育成、男女共同参画推進に向けたさまざまな活動を行ってきました。その結果、プロジェクトに参加した各学部で、男女共同参画委員会の発足や女性の専任教員の採用増

キャリア教育の実施など多くの効果が生まれ、文科省からも非常に高い事後評価をいただきました。こうした有意義な活動を3年間で終わらせることなく、さらに本学で広く推進させていきたいという考えから、理事長特別研究に応募し採択されました。

野呂 日本の女性研究者の比率は14%程度と先進国の中でも最低。このようなプロジェクトを通して理系女子の人材育成を促し、女性の発想や力を活用できる環境を整えていくことは、今後日本が科学技術立国として世界経済をリードしていく上でも、また日本大学としてのステータス向上という観点

からも大きな意味があると考えています。

理工系は入り口と出口 医歯薬系はキャリア教育を重視

——プロジェクトではどのような取り組みを？

落合 「ENTRANCE(入り口)」「EDUCATION(教育)」「EXIT(出口)」の3つのEを掲げ、理系女子人材の育成・サポートを行っています。ENTRANCEでは理系女子の入学者増、EDUCATIONでは入学後のキャリア教育、またEXITでは就職および就職後のキャリア継続・キャリアアップを目的とした取り組みが中心になります。

前回のモデル育成事業では理系学部の一部と豊山女子中学・高校が参加しましたが、今回は理系の学科を持つ全9学部と短期大学部も参加しています。

野呂 入り口に当たる女子中高生の理系選択支援については、医歯薬系学部ではそれほど問題ないのですが、女子学生の割合が10%前後と少ない理工、生産工、工では、特に力を入れていく必要があります。そこで例えば生産工学部では、オープンキャンパスで女子学生による相談コーナーを設置して女子

の入学希望者にきめ細かく対応するほか、体験授業や出前講義、高校訪問などを積極的に行っています。今年は入学者の女子比率が3年前の約50%増になるなど、早くもめざましい成果が表れています。

落合 医歯薬系学部で重視しなければいけないのは、入学後のキャリア教育です。医歯薬系は6年課程で、卒業後の研修もあります。例えば医学部を24歳で卒業して国家試験に合格しても、その後の初期研修、後期研修などを経て専門医になるまで少なくとも5〜7年かかります。その間、女性は出産、子育てなどさまざまなライフイベントと重なることも多いので仕事が中断されキャリアをうまく形成できないとか、職場復帰できないという問題が起きてきます。そこで医学部では、1年次の早期から「医学序論」の講義の中で将来のキャリアパスについて教育しています。また医学部生に対してロールモデルとなる医師に講演をお願いするセミナーを開催しています。優秀な人材が高いモチベーションをもってキャリアを継続することが本学の発展に寄与すると考えます。

を招いての講演会などを行っています。また、こうしたキャリア教育はできるだけ早期から行うことが望ましいので、豊山女子高校にも理系学部の先生を派遣して進路決定に役立つ特別授業などを実施しています。

それと最後の出口、就職についてですが、各学部の就職プログラムに加え、校友会とも連携して活動を進めています。

本学には理系分野で活躍する多くのOGがおられますので、女子学生ののためのキャリア教育や就職にかかわる講演会、懇談会などの

イベントにご協力いただいています。さらに企業の女性リーダー育成を目指す外部のNPO法人などとも連携して、理系女子学生のインターンシップなど多彩な支援を行っていく計画です。



野呂知加子教授
(生産工学部)



落合豊子教授
(医学部)

花ひろく 日大理系女子 (リケジョ)

男女ともに働きやすい
職場環境づくりを目指して

——プロジェクトの今後の展開は？

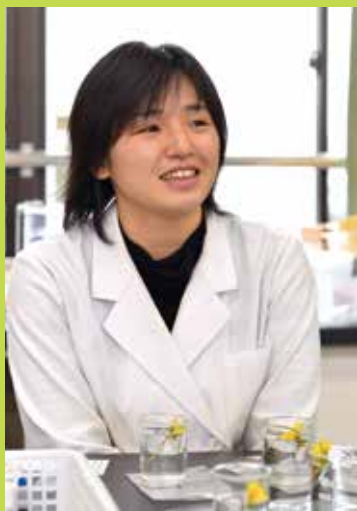
落合 このプロジェクトが理事長特別研究に採択されたということは、換言すれば本学が大学としての社会的評価の向上、発展に真剣に取り組んでいるという意思表示であると考えています。今回のプロジェクトは理系の女子学生と研究者が主な対象ですが、将来は男子学生も含めて全学部でこうした活動を進めていきたいです。また、保育所など女性が生き生きと働ける職場環境の整備もこれからの重要課題です。

野呂 今、国や企業ではダイバーシティ(多様性)の推進ということがさかんに言われています。男女の性別はもちろん、国籍、年齢などにとらわれない多様な人材の活用がイノベーション創出の原動力につながるという考え方です。本学でも本部に男女共同参画推進委員会ができ、環境づくりを進めています。こうした男女ともに働きやすい日本大学をつくっていくことも、そこで学ぶ学生が将来設計をする上では大切ですし、将来の大学の発展にもつながる。そうした気持ちで進めていきたいと思っています。

——ありがとうございます

理系分野への興味を引き出す 「スーパー授業」

佐野日本大学高等学校 SSクラス



SSクラス2学年担任の橋本侑教諭(生物)。「指導では実験の手順などもなるべく生徒自身に考えさせるようにしています。私たち教員が思いもつかないアイデアを提示してくる生徒もいて、発想の柔軟さに驚かされることもしばしばです」

文部科学省からSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け、大学等と連携して理数教育に重点を置いた取り組みを行っているのが佐野日本大学高等学校。特別進学コースにSSクラスを設置し、特別授業「スーパー科学」の開講や研究者による講演会、アメリカ科学研修などの多彩な取り組みを通して国際的な科学技術人材の育成を目指している。

「スーパー科学」(土曜1~4限)では、生徒が各自の興味に応じて物理、化学、生物、数学の各班に分かれて課題研究活動を行っている。例えば2年生の近藤まなみさんが昨年より取り組んでいるのは「タンポポタチの戦略」学校周辺のタンポポ調査。1年次の春に植物学の研究者による特別授業がきっかけでタンポポの生態に興味を持ち、研究テーマに決めた。授業時間以外にも、毎日放課後にタンポポの花粉や種子などの採取や標本製作、種類や個体別のデータの収集・分析に取り組んでいる。「彼女をはじめ、下校時刻を過ぎても実験室で研究に打ち込んでい



SSクラスの「スーパー授業」で課外研究活動を行う近藤まなみさん(中央)と橋本教諭。近藤さんは校内と近隣の河原に自生するタンポポの種類や特徴の違いについて実地研究を行っており、昨年は日本進化学会の「みんなのジュニア進化学ポスター賞」で優秀賞を受賞した

る生徒が少なくありません。熱心なのはうれしいのですが」と担任の橋本侑教諭(生物)は苦笑する。

同授業では、本学理工学部やJAXAなど研究機関との連携授業や学内外での研究発表会などを通じて外部の研究者の指導を受ける機会も多く、それが生徒のモチベーション向上や、将来の進路を考えるキャリア教育にもつながっている、と橋本教諭。

橋本教諭が担任する2年生のクラスでは23人中10人が女子。卒業後はSSクラスの生徒の大部分が理系学部に進学している。佐野日本大学高等学校のユニークな理系教育は、「理系女子」の育成に大きく貢献しているといえそうだ。